

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		市道舗装修繕事業						予算事業名		市道舗装修繕事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	道路法、道路構造令						
				08	02	02	1102	経常経費								
総合計画体系		住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう							事業の区分		主要事業					
		快適で住みやすいまちづくり														
		道路維持管理の充実							担当課係等		土木課 維持係					
事業期間		継続 (平成24年度～令和 8年度)														
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】								
老朽化して傷んだ舗装を修繕し、快適に通行できる道路とする。								国の緊急経済対策により、防災・安全社会資本整備交付金事業として、平成24年度以降実施されていたが、補助要件変更に伴い対象路線から除外された路線への継続対策事業。								
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】								
結城市道路修繕計画に基づき、舗装が老朽化している舗装道路の修繕工事を実施する。 ・市道0113号線（田間）L=700m ・市道2074号線（小森）L=1100m								道路の利用者。								
								【事業をとりまく環境の変化】 結城市道の延長は実延長831 k mにおよび、うち約538 k mが舗装済となっているが、近年は舗装の老朽化が進み、修繕工事に多額の予算を要している。 このため、市民からの要望にも対応が追いついていかない状況の中で、国の補助金等導入も積極的に活用しながら、交通量の多い補助対象除外路線にも舗装修繕を実施する。								
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】								
市道0113号線（田間）				市道0113号線（田間）				市道0113号線（田間）								

■事業費

		R04年度	R05年度			
財 源 内 訳	国 庫 支 出 金	0	0			
	県 支 出 金	0	0			
	地 方 債	4,500	4,500			
	そ の 他	0	0			
	一 般 財 源	439	500			
歳 入 計 (千 円)		4,939	5,000			
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)	金 額 (千 円)	金 額 (千 円)			
	14 工事請負費	4,939	5,000			
歳 出 計 (千 円) (A)		4,939	5,000			
伸 び 率 (%)			1.23			
備 考						

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	舗装修繕工事延長	k m／年	目標	0.40	0.40	0.40
			実績	0.10	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	整備率（延長％）	％	目標	100.00	100.00	100.00
			実績	25.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	市民から多くの要望があり必要性は高い。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	道路管理者が実施することが責務である。
	手段の妥当性	A 妥当である	現在の手段が一般的である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	年々舗装修繕の要望が増える中、緊急性・必要性を考慮し、修繕計画に基づき予算の範囲内で施工を行っているが、予算額を増やし工事延長を伸ばすことができれば、経費の削減が可能。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市内全域で舗装された市道を対象としており、道路管理者が実施すべき内容であり公平性は高い。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	交通安全性の向上・危機回避が図られた。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	経年劣化している舗装道路が多々ある中、本事業が導入されたのが近年であり、限られた予算の範囲内での対応となるため、市内全体の対象路線で考えた場合、進捗率は低い。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
本事業は、老朽化した舗装道路の修繕をまとめた距離で対応できることから、必要性・有効性の高い事業である。生活道路については、昭和40年代から50年代にかけて、舗装新設を行った箇所の老朽化が特に激しく、良好な交通環境を目指すためには、適切な改修整備の計画策定が重要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
市道路修繕計画について、緊急性・必要性を考慮し、数年ごとに見直しが必要と思われる。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 道路の老朽化に伴い舗装補修の要望が増加する中で、経済性・耐久性などを考慮しながら対応していく。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	